

令和6年度

調査研究助成事業報告書

◆ 千葉県立香取特別支援学校PTA

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会

かとりん「防災ハンドブック」の作成

～学区の2市2町における

知的障がい・発達障がい児童生徒のために～



千葉県立香取特別支援学校 P T A

もくじ

- 1 はじめに
- 2 研究概要
- 3 学校概要・学校安全計画
- 4 かとりん「防災ハンドブック」
- 5 PTA 防災講話・非常食試食会
- 6 防災デイ
- 7 福祉避難所開設訓練①
- 8 福祉避難所開設訓練②
- 9 かとりん防災ガチャの作成
- 10 かとりん防災リュックの作成
- 11 福祉防災講演会
- 12 学校訪問
- 13 福祉避難所の利用意向等に関するアンケート

1 はじめに

令和6年1月に発生した能登半島地震では、福祉避難所の開設が2割であったという調査結果があり、福祉避難所への直接避難を促す国の方針や過去の大きな災害の教訓が生かされているとは言い難い現状がみられます。このような現状の中、知的障がいや発達障がいのある児童生徒が災害についての知識を深め、災害への対処能力を高めることが急務となっていると考えます。また、大規模災害が生じた時の学校としての対処能力については、神崎町の福祉避難所に指定されているものの、開設訓練をしたことがなく、自治体と連携した取り組みが急務となっています。このような課題に対して、災害に対処する児童生徒の対処能力の育成と、ハード・ソフトの両面から、災害時に児童生徒の命を守る福祉避難所の円滑な設置運営の準備を行うために、本研究を行うこととしました。

2 研究概要

研究概要	<p>○保護者、福祉関係者、行政へのアンケートを基に、香取圏域で作成された「医療的ケア防災ハンドブック」や全知P連で作成した「安心手帳」とのつながりをもたせつつ、主に知的障がいや発達障がいがある児童生徒と家庭のための「<u>防災ハンドブック</u>」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none">・作成するにあたって、<u>防災の専門家による講演</u>を行い、知識を習得する機会を設ける。・また、<u>被災地の学校の保護者と話せる場</u>を設定し(状況によりオンラインミーティング)、研鑽を深める。・加えて、<u>北総地域の特別支援学校</u>に直接訪問し、備蓄やPTAの防災の取組について視察やヒアリングを行う。・学校や地域と連携した<u>福祉避難所開設訓練</u>を実施し(もう一つの福祉避難所：特別養護老人ホームとの連携)、防災ハンドブックを用いて災害別の「<u>個別の避難計画</u>」を作成できるようにする。・完成したものは、学区の2市2町の<u>特別支援学級等の在籍者</u>にも配付し、地域の防災力を高めるための一助となるようにする。また、「<u>かとりん防災ガチャ</u>」で啓発を図る。・児童生徒が学校待機となった場合の学校の備蓄確認を保護者の視点で行うとともに、学校に宿泊することとなった場合に個人用の備蓄を行うことができる、「<u>かとりん防災リュック</u>」の作成をする。・学校キャラクターの「かとりん」を使って、児童生徒自身も親しみながら作成に携われるようにする。また、学校のホームページを活用して、広く紹介をする。
------	--

3 学校概要・学校安全計画

(1) 学校概要

本校は「発酵の里 こうざき」を銘打つ神崎町にあり、江戸時代には利根川の水運により栄え、肥沃な大地と豊かな水源、自然の恵みに満ちあふれた地域です。昭和54年に創立し、知的障害のある児童生徒を対象とした小学部、中学部、高等部からなる特別支援学校です。令和6年5月1日現在の児童生徒数は、小学部12学級47名、中学部8学級31名、高等部8学級43名、計28学級121名であり、教職員数は94名です。学区は千葉県香取市（佐原地区、小見川地区）、千葉県成田市（下総地区、大栄地区）、千葉県香取郡神崎町、東庄町の2市2町にまたがっています。

本校の教育目標は、『自立』を目指して自ら学び、豊かな心を持ち、元気にたくましく生きる子どもを育成する。児童生徒の人権を尊重し、一人ひとりに応じた教育を推進し、豊かな人間性や社会性を育むことにより、『自立』し社会参加できる児童生徒を育成する』と定めています。また学校経営の基本方針として、『児童生徒・教職員が輝く学校づくり』とし、経営の重点の一つとして「安全安心な学校づくりのもと、教職員自らが人権意識を高め、互いの人格を尊重するとともに、心身ともに健康で、自他の命を大切にする教育活動に取り組むことのできる学校づくりを推進する」としています。

東日本大震災では、地盤沈下等の影響により校舎に大きな損傷が生じました。また、洪水ハザードマップでは、本校は浸水想定区域に入っており、そのために地震や火災を想定した避難訓練に加え、水害を想定した垂直避難訓練も教育活動に取り入れています。

(2) 学校安全計画

学校安全計画の基、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、防災・安全教育を教科指導におけるカリキュラム・マネジメントによって実践し、各教科、特別活動を中心として、主に知的障害がある児童生徒121人の命を守る教育を推進していきたいと考えています。また、本校はこれまで知的障害教育における教科指導の在り方の実践研究に取り組んできており、その研究成果を生かして小学部、中学部、高等部の全学部で、様々な分掌で、大切な命を守るための実践に取り組んでいます。本校での安全教育は主に、生活安全、交通安全、災害安全で構成されています。

(3) 各教科における安全教育

主に小学部生活科（生活単元学習）、中学部社会科、高等部社会科、特別活動において実施しています。教科指導においては、小学部生活科、中学部・高等部社会科12年間を見通した年間指導計画の全体像を作成し、3学部12年間での系統的な指導を行っています。

小学部生活の関連する内容項目		
イ 安全 カ 役割 キ 手伝い・仕事 ケ きまり		
コ 社会の仕組みと公共施設		
学年	単元名	主な学習内容
小学部1年	『歩いて行こう』	交通ルールを理解
小学部2年	『ゆめ牧場に行こう』	交通ルール・公共施設や遊具の利用
小学部3年	『ゆめ牧場に行こう』	交通ルール・公共施設や遊具の利用・食事
小学部4年	『フリスポに行こう』	交通ルール・公共施設や遊具の利用・レストランの利用
小学部5年	『佐原・小見川レッツゴー』	交通ルール・公共交通機関や公共施設の利用
小学部6年	『修学旅行に行こう』	交通ルール・公共交通機関や公共施設の利用・宿泊施設の利用

	ア社会参加ときまり	イ公共施設と制度	ウ地域の安全	エ産業と生活	オ我が国の地理や歴史	カ外国の様子
中1	交通ルールと道路標識	消防署の役割と公共施設	地震がおきたらどうする？			
中2		公共施設について～警察編～	火災から身を守る	学校がある神崎町について知ろう		
中3			台風から自分を守る		今と昔の生活の違いを知ろう	外国の文化を知ろう
高1	選挙の仕組みを知ろう	暮らしに関わる施設を知ろう	災害から身を守る		47都道府県について調べよう	外国の文化を知ろう
高2	選挙の仕組みを学ぼう		千葉県自然災害や防災対策について知ろう	千葉県の産業の歴史	千葉県内の地域や文化	
高3	投票に行こう		日本の自然災害や国の防災対策について知ろう	情報化社会と消費生活	日本各地の文化や歴史	

※高等部は「イ公共施設の役割と制度」「ウ我が国の国土の自然環境と国民生活」「オ我が国の国土の様子と国民生活、歴史」

① 小学部 生活科（生活単元学習）、特別活動（校外学習）

横断歩道の学習	ヘルメットの着用学習	職業体験（命を助ける仕事）
		

② 中学部 社会科、特別活動（校外学習）

地域の防災マップ	交通標識等の学習	警察署の役割
		

③ 高等部 職業科、特別活動

移動交番体験	防犯教室	職業体験（命を助ける仕事）
		

（４）特別活動における安全教育 交通安全教室、防災デイ

交通安全教室	防災デイ（煙ハウス体験）	防災デイ（水消火器体験）
		

4 かとりん「防災ハンドブック」

(1) 概要

中学部社会科、高等部社会科の安全に関する指導に活用するために、令和6年度の指導内容をまとめた、かとりん「防災ハンドブック」を作成しました。

(2) 防災ハンドブックの内容



1, そなえる×かとりん

避難所（ひなんじょ）には何がある？

	避難所（ひなんじょ）
食事をするために必要なもの	
寝るために必要なもの	
生活を送るために必要なもの	
その他、必要なもの	

11

1, そなえる×かとりん

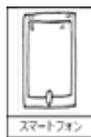
マイ避難マニュアル〜地震編〜 !

		自分の行動	家族の行動
地震発生前	地震が発生する前		
	緊急地震速報が流れる		
地震発生中	強いゆれがおこる		
地震発生後	ゆれがおさまる		
	家が危険で帰れない		

12

2, 知る×かとりん

きんきゆう 地震（じしん）そくほう をきこう！



(とくちょう)

(とくちょう)

13

2, 知る×かとりん

ハザードマップを 見よう！



(何が書いてある?)

(どこにある?) (どうやって読める?)

14

3, にげる×かとりん

シェイクアウトこうどうを、やってみよう！



15

3, にげる×かとりん

あぶない場所（ばしょ）を さがそう！



16

こべつひなんけいかく きほんそざい
かとりん個別避難計画 基本素材



※必要な内容を付け足していきましょう！！

●市町及び地区等名 (かとりん 市) 作成日: 2025年 2月1日

ふりがな	かとり たろう	せいべつ 性別	ほんにんしゃしん にんい 本人写真 (任意)	
しめい 氏名	香取 太郎	男		
せいねんがっぴ 生年月日	2012年 1月 1日 (13歳)			
じゅうしょ 住所	千葉県香取郡神崎町大貫383-13			
てんわ 電話	じたく 自宅) 0478-72-2911	けいたい 携帯)	しんちょう 身長 135cm	たいじゅう 体重 39kg
メール E-mail	katorin@katorinmail.com		けつえきがた 血液型	かた 型 (+)
いりょう ふくやく 医療・服薬	しっかん しょう めい ○疾患や障がい名、かかりつけ医など 知的障害、ぜんそく カトリ医院 神崎先生			
はいりょじこう 配慮事項	い しでんたつ ○意思伝達 絵カードを使用して、やりたいことを伝えます。 伝えたい内容は、文字に書いて見せてください。 こうどう ○行動 大きな音が苦手、耳をふさぐことがあります。			

地震がきたら
シェイクアウト行動



じしん
●地震

	ばしょ かくにん 場所の確認☑	うけい かくにんおよ たんどうしゃめい はいりよ たいおうなど 受入れの確認及び担当者名、配慮への対応等
していきんきゅうひなんばしょ 指定緊急避難場所	みなみ広場	
していひなんじよ 指定避難所	きた小学校	市役所の担当：山手さん
ほか こうほさき その他の候補先①	東庄さん宅	母親の兄家族
ほか こうほさき その他の候補先②	成田さん家	父親の弟家族
ほか こうほさき その他の候補先③	なんせい 市役所	市役所の担当：山手さん

ふうすいがい しんすい どしやさいがい
●風水害（浸水・土砂災害）

	ばしょ かくにん 場所の確認☑	うけい かくにんおよ たんどうしゃめい はいりよ たいおうなど 受入れの確認及び担当者名、配慮への対応等
していきんきゅうひなんばしょ 指定緊急避難場所	なかよし 広場	
していひなんじよ 指定避難所	ふれあい 体育館	市役所の担当：山手さん
ほか こうほさき その他の候補先①	東庄さん家	母親の兄家族
ほか こうほさき その他の候補先②	成田さん家	父親の弟家族
ほか こうほさき その他の候補先③	なんせい 市役所	市役所の担当：山手さん

5 PTA 防災講話・非常食試食会

災害時の非常食の試食会を行いました。災害時には食器の管理が難しいため、使い捨ての容器を使用するなどの工夫が必要でした。



2024.10.8

PTA厚生部 防災講話・非常食試食会

千葉県立香取特別支援学校長 村山 猛

1

(2) 非常災害対策・防犯対策

放デイガイドライン:P51(抜粋)

○非常災害に備えて消火設備等の必要な設備を設けるとともに、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の避難方法や、関係機関・団体への通報及び連絡体制を明確にし、それらを定期的に職員や保護者に周知することが求められている。また、設置者・管理者や職員は、こどもの障害種別や障害の特性に応じた災害時対応について、日頃から理解しておくことが重要である。

○非常災害に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行わなければならない。訓練を行うに当たっては、地震や火事、風水害など非常災害の内容を明確にした上で、それぞれの災害に対する訓練を行うことが重要である。

○重大な災害の発生や台風の接近等により危険が見込まれる場合には、こどもの安全確保のために、状況に応じて事業所を休所とする等の適切な対応を行う必要がある。このため、保護者と連絡体制や引き渡し方法等を確認しておくとともに、市町村の支援の下、保育所等の関係機関・団体との連絡体制を構築しておく必要がある。また、**地震や風水害等の緊急事態に対して、重要な事業を継続又は早期に業務再開を図るための事業継続計画(BCP)を策定するとともに、BCPにない、職員に対して必要な研修(シミュレーション)を実施することが必要である。**BCPの策定に当たっては、「障害福祉サービス事業所等における自然災害発生時の業務継続ガイドライン」を参考にすること。

○障害のある子どもについては、個別避難計画の作成が市町村の努力義務とされており、その作成に当たっては、こどもの状況等をよく把握する福祉専門職等の関係者の参画が極めて重要であるとされていることから、保護者のほか、相談支援事業所や主治医の参画が想定されるため、当該相談支援事業所等との間で、災害発生時の対応について綿密に意思疎通を図ることが重要であり、設置者・管理者は、職員に徹底する必要がある。

○医療的ケアが必要な子どもに関する災害時の対応については事業所の周辺環境から災害リスクを想定し、医療的ケアの内容やこどもの特性に応じて適切な災害対応を検討する必要があり、対応の検討に当たっては、「保育所における医療的ケア児の災害時対応ガイドライン」も参考にすること。

3

「受援力」を高める

今できることには限界がある
何かあった時に役立つものは、

- 子ども自身
学習で「何かあったら連絡を」
→「電車が3分遅れています」
→「寝る」「次は10分遅れたらいい」
あるいは「そんなことは報告しないでいい」と否定するか
- 家族が
隣家に子どもの様子を知ってもらう
災害時要援護者名簿登録をする 個別避難計画を作成してもらう
放課後等デイサービスガイドライン(非常災害対策・防犯対策)
- 学校が
熊本地震の広安西小の対応(ランドセル)
ある支援学校の対応(おむつ)

4

- 熊本地震の様子を踏まえて、
2～3人で受援力について、
紹介し合ったり、考えたりしてみましょう。

「メモ」

5

台風・豪雨災害

〇2018年 西日本豪雨 岡山県倉敷市等の水害
自衛隊に、おぶられ・抱えられ避難できる姿勢づくり
感じて伝える大切さ、「おねしょ？」
外水氾濫・内水氾濫

〇令和元年(2019年)
台風15号(風や停電) 19号(竜巻) 21号(大雨)
市原特別支援学校にて、、、。

7

- 子どもたちが、学校に待機宿泊するとなった際に、心配なことは？ 必要な物は？
防災リュックの中身の例示になると、、、。
例1・防災頭巾 東日本大震災時に
例2・シュラフ(寝袋) 岐阜県の支援学校

「メモ」

8

試食会

〇備蓄食料用の紙皿や手袋、ラップ等の備えがなかった、、、
PTAから購入をお願いできると、、、。

〇児童生徒は、給食で「ぼうさいカレーライス(アルファ
化米等)」の試み。

〇1/30の「防災デイ」では非常食の試食をしてみたい。
皆と一緒に食べられる子どもも、、、。

9

暑さの中の宿泊

- ・網戸 電気がないときにどうするか
うちわや電池の扇風機
バス内の避難

・備蓄の内容の変更

・避難のアンケートの結果

・通信の問題 連絡つかない場合 茨城県(橋) 学校からの発信があると安心

10

・チームで職員に共有

・昨日、PTA厚生部主催の研修があり、村山からの話しと非常食の試食を行いました。村山からは、夏に先生方に話した内容を基本に、安全や防災を推進したい旨を伝えました。保護者からの意見・要望として、

・①暑さの中で学校待機・泊(あるいは家族が学校へ避難)となった時に、電気が落ちてしまっていたらどうなるのか、という質問がありました。電気が落ちていたら、避難家族等の受入れは難しいと思いますが、下校困難で宿泊となった場合は、学校にあるもので何とかしないといけなくなります。うちわや電池式の扇風機などを活用するとともに、ガソリンを確保し(神崎町にスタンド2件あり、地域コーディネーターの伊藤さんが話をしてくれています)、スクールバス内で冷房を効かせ過ぎることになると思いますと話しました。今後、PTAで防災リュックを用意し家庭から持ってきてもらう時に、夏場は乾電池式の扇風機や扇子(うちわ)、寒さ対策でホッカイロやエマージェンシーシートなど、季節対策の物を持参してもらえると有難いと思いました。何を持っていったら良いですか?と質問を受ける場合もあると思うので、参考にしてください。加えて、宿泊となればシュラフやエアーマット(枕)などもあると有難いですよね。

11

・②備蓄の内容の変更は可能か?(県で統一されているのか?)統一はされていないので可能ですと答えてあります。安全防災係の方で、入れ替えの際には、おいしい非常食を購入してください。

・③本宮教務主任が、本校への避難の可能性についてアンケートを取っていますが、その結果について、気にしていました。本宮先生、帰ってきたら、結果の還元をお願いします。

・④通信の問題や茨城県で働いている場合(橋が通過できなくなる等)、連絡がつかない間は学校で子どもたちを見守ってくれるのか?管理下にいる間は、守りますと答えてあります。東日本大震災時に安否確認ができない家庭に、教員が子どもを乗せて送ったことがありました。大規模災害時には、臨機応変な対応が求められます。そのときできる最善策をとっていくことになります。

12

6 防災デイ

令和7年1月30日(木)に、「防災デイ」として煙ハウスの体験、水消火器での放水訓練、段ボールベッド体験、暗闇での歩行体験と非常食の試食を行いました。非常食の試食では、非常食用のパンやビスコ、ハイハイン、保存水の試食・試飲を行いました。



7 福祉避難所開設訓練①

令和6年8月に、本校において福祉避難所開設訓練①を行いました。訓練内容は、本校在籍児童生徒及び学区内に居住する、医療的ケアが必要な方に対して、災害時の個別避難計画に基づく、本校へのダイレクト避難についての訓練を実施しました。

千葉県立香取特別支援学校 福祉避難所開設訓練① 実施計画

目的：①個別避難計画に基づく医療的ケア児者の本校へのダイレクト避難を円滑に行う。

香取市：成人1名、児童1名生徒1名、成田市生徒1名 計4名

②関係機関との役割分担や課題を明確にする。学校所在地：神崎町

香取市（当事者支援）、神崎町（家族の物資）、香取障害（全体の連絡調整）、東庄町、ドローン協会（避難路確認）、病院、訪問看護（当事者支援）、成田市、地域振興事務所など

③本校職員の役割分担を明確にし、マニュアル（福祉避難所開設協力計画）を見直す。

④在籍児童生徒が多く、学校からも距離が近い香取市との災害協定を進めるきっかけとする。



（当日の様子が取材されました。以下はNHKのホームページです。）

“災害の際 スムーズに避難を” 医療的ケア児の避難訓練 千葉”

<<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240725/k10014523551000.html>>

8 福祉避難所開設訓練②

令和6年8月に、本校において福祉避難所開設訓練②を行いました。訓練内容は災害時に使用する段ボールベッド、パーティションの設置訓練と、備蓄品の確認、福祉避難所開設の机上訓練を実施しました。

千葉県立香取特別支援学校 福祉避難所開設訓練② 実施計画

1 目的: ①災害対応について、知識、意識、組織力を高める

②児童生徒が学校待機(宿泊)した際や児童生徒の家族が避難した際の対応について、シミュレーションを行い、課題を明確にする(保護者や地域向けアンケートの検証)。

③事前:「福祉避難所開設協力計画」の実行性の確認。:「災害時ファースト・ミッション・ボックス(FMB)」や「アクションカード(行動マニュアル)」の検討。

2 想定

① 9月のある日、台風8号が接近していたが、校長が判断を誤り、SBを運行させてしまった。

午前11:30、雨脚が予想より強くなり、冠水情報や土砂災害危険情報が入ってきた。

SBの運行や保護者の迎えは危険を伴うという教訓から(R元台風)、児童生徒を待機・宿泊させ、迎えが大丈夫になった家庭から迎えを依頼することになった。

・時系列に沿って(13:00、14:30、16:00、18:00、20:00)、生じる対応(子どもへの説明等)、予想される混乱(子どものパニック等、教職員自身の家族等)、備え等について、視覚的に共有・議論する。

※管理職は、このような状態にならないために、学校が取るべき対応や基準について、検討する。

② 9月のある日、学校は休校であったが、職員出勤後、線状降水帯が発生し、利根川水系に避難指示が出された。利根川沿い居住の10家族から避難要請があり、状況により2階へ移動することもあることを条件に受け入れることとなった。10家族の内訳は、以下のとおりであり、その際、どのような対応が必要となるかについて、実際に物資等を確認しながら検討してください。

・小学部4家族、中学部2家族(うち医ケア重複学級1家族)、高等部2家族
卒業生1家族、大貫地区1家族



9 かとりん防災ガチャの作成

PTA 活動の中で、千葉県生誕150周年事業として千葉県より提供された備品を使用して、本校のマスコットキャラクター「かとりん」をモチーフにした、「かとりん防災ガチャ」を作成しました。2種類のガチャを作成し、一つは「さすまたを使うかとりん」(写真中央上)や「横断歩道を手を挙げて渡るかとりん」の図柄を入れたアクリルキーホルダーを作成しました。もう一つは、『まず低く』『頭を守り』『動かない』のシェイクアウト行動をしているかとりん(写真左下)を図柄にしたマグネットシート3枚を入れたものを作成しました。

PTA 厚生部役員と有志の方々と和気あいあいとした雰囲気の中で、100個以上のガチャを作成し、本校の文化祭である「かよう祭」で販売し、大盛況で完売することができました。



10 かとりん防災リュックの作成

災害時に児童生徒が必要なものを学校に備えておくことができるように、「かとりん防災リュック」を作成しました。防災リュックの中身については、他の特別支援学校の事例を参考にしながら PTA 本部役員で協議を行い、毛布やアルミシートなどのすでに学校に備蓄されている物品を確認し、不足している物の中で児童生徒の一人一人のニーズに応じた物品を選び、災害時に必要な物を備えておくこととしました。



1 1 福祉防災講演会

千葉県立香取特別支援学校



福祉防災講演会

～福祉避難所の現状と課題～

かぎや はじめ
講師：鍵屋 一 氏

跡見学園女子大学教授 (一社) 福祉防災コミュニティ協会代表理事

※本講演会は、「全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会調査研究事業」

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」により実施します。

令和6年8月22日(木)

午前10時～11時30分(受付9:30～)

千葉県立香取特別支援学校 食堂



申込はこちらから ※8/9まで



1 2 学校訪問

(1) 学校訪問の内容

福島県立大笹生支援学校	令和6年12月19日(木)
震災遺構 浪江町立請戸小学校	令和6年12月19日(木)
日立市立日立特別支援学校	令和6年12月20日(金)

(2) 福島県立大笹生支援学校 視察報告

訪問日：令和6年12月19日(木)

目的：東日本大震災で大きな被害を受けた地域の現状を見聞きし、知識や意識をつなぐことで、地域や学校の安全及び防災力を高め、いつか来る大きな災害に備える。



※いただいた資料より抜粋します。

○学校安全計画について

学校行事：避難訓練に加えて、保護者と連携し、緊急時引き渡し訓練を実施している。

○放射線の理解や原子力災害等について、小学部段階から学習をしている。

小学部5・6年：合わせた指導（生活、国語、算数）

東日本大震災、原発事故、放射能について理解する。

放射線測定について知る など。

中学部2年：放射線と災害から暮らしを守る。（社会、理科）

高等部3年：防災についての調べ学習や体験学習を実施している。（総合的な探究の時間）

- ・起震車体験を行い、災害を身近に感じる中で自分たちにできる防災を考える。
- ・福島市水道局の出前講座を受けることで、生きるための水の必要性や水に関する災害対策を考える。
- ・福島市危機管理室の出前講座を受けることで、災害時に生きる知識や知恵を身に付け、主体的に行動する力を身に付ける（「ぼうさい体験パッケージ」として、テント設営体験やアルファ米の試食を行う）。
- ・(株) 明治による講話を通して、SDGs についての理解を深め防災についてより深く考える。
- ・学習旅行として、宮城県松島町・名取市を訪れ、東日本大震災の記録や復興の様子に触れる。

○学校安全管理委員会

目標：(1) 学校における種々の危険を事前に予測し、対応体制の検証を図りながら、危機管理マニュアルの整備を行う。

(2) 種々の災害を想定した訓練や研修を実施し、児童生徒及び職員の生命の安全確保と学校施設の保全、防護に努める。

月別運営計画（主な内容の抜粋）

4、5月 緊急時の対応の周知 学校防災計画周知 IDカード作成
学校防火診断 避難訓練

6、7月 緊急時一斉配信メールの配信テスト 不審者対応訓練実技研修会
前期反省集約 不信者対応の指導

8月 警報装置、消火施設等の点検

9、10月 避難訓練（総合訓練）及び危機管理マニュアル（地震）の検証
緊急時一斉送信メールの登録状況の確認 緊急時引き渡し訓練

11、12月 学校防火診断 点検・整備 後期反省集約 不審者対応の指導

災害備蓄計画

- ・非常食 飲み水（家庭から2食分を持参）
- ・手洗いトイレ用の水 寝袋 タオルケット メディラップブランケット
ブランケット 靴下 おむつ 肌着及びシャツ ラップフィルム 発電機

○危機管理マニュアル（目次より抜粋：本校にないものを記載）

- ・吾妻山火山噴火時の対応
- ・急病や怪我の対応 熱中症集団発生時の対応
- ・原子力災害発生時の対応



○福島県高等学校長協会からのメッセージ

「福島から能登 未来へ」プロジェクト

福島を生きる私たちから、それぞれの体験に基づいた想いやメッセージを能登の方々へ

<https://sites.google.com/fcs.ed.jp/fukushima-to-note/>

○第7次福島県総合教育計画 「福島ならではの教育」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/7zikeikaku.html>

○感想等

あらためて、地域によって災害のリスクが異なり、力点を置く学習内容も変わってくると感じました。また、保護者や地域と連携した実践がうまく教育課程に反映され、社会に開かれた教育課程の実現に向けての実践がされていると感じました。参観時、校舎がとても明るくきれいで、子どもたちがのびのびと学習している様子も見ることができました。

沿岸部の様子を見ると、復興はまだ半ばであると強く感じました。今回の経験を我がこととして、香取特別支援学校や地域の防災力を高め、安全安心な学校づくりを推進していきたいと思います。

(3) 震災遺構 浪江町立請戸小学校 視察報告

以下の文は公式 HP より <https://namie-ukedo.com/>

2011年3月11日・東日本大震災 ー

未だかつて経験したことのない大地震・大津波とその後の原発事故に見舞われ、甚大な被害を受けた福島県沿岸部。

福島県浪江町に位置する請戸小学校も大きな被害を受けましたが、全員が無事避難することができた奇跡の学校としても知られています。

倒壊を免れた校舎に刻まれた脅威と、全員避難することができた経験を伝えるため、2021年より震災遺構として一般公開いたしました。

訪れた人の、“自分事として震災をとらえ、防災について考えるきっかけ”になれば幸いです。



撮影日：R6.12.19 撮影者：村山

○感想等

津波の脅威を改めて感じることができました。訪問した日もとても寒く、震災当時も大変であったことを、身をもって感じることができました。

「請戸小学校物語 大平山をこえて」を読んで、請戸小学校の全員が避難できたことが、とても良かったと感じるとともに、避難場所を事前に決めておくことや、地域のことを良く知っていることが、いざという時の大切な「判断」に生かされると思いました。機会があれば、ぜひ訪問し、いろいろな思いを共有できると良いと思いました。

(4) 日立市立日立特別支援学校 視察報告

日立特別支援学校 視察 報告

視察日 令和6年12月20日(金)

防災の取組について 施設見学 および ヒアリング

PTA会長

(感想) 学校全体で子供たちを守る、という意気込みがとても感じられた。
PTA役員も積極的に参加して、防災に取り組まれている。

・防災用品について

支援学校の分として、日立市で設置されている防災倉庫が学校敷地内にある。
用意されている内容は、一般市民に配られる物と同じもの。



アルファ米



水 投光器



組み立て式ダンボールベットの床マット



簡易パーテーション



防災訓練を実施した時、雨が降っていて通り道がぬかるんでいた為、倉庫から防災グッズを運搬するのに台車が使用できなかった。
至急、市に要望してアスファルトを設置してもらった。

・PTA独自の防災倉庫

PTA独自で用意している防災用品がある(市とは別の防災倉庫)。子供たちが食べられそうな物や足りないものを、PTA会費で準備。



おかゆ
ドライカレー

ビスコ
クッキー

スープ類



水
野菜ジュース



カセットコンロ



衛生用品
ランタン



全身清拭ぬれタオル

・防災リュック

共通のバックではなく、各自で用意している。
必ず入っているもの
(水・500ml 1本、マスク、下着、防寒着、お菓子など食べられるもの)
その他 各自の状況により必要な物

長期休みの時は、以前は家へ持って帰っていたが、現在は学校で保管している。長期休み中も学校に保管することとした理由として、外出している際に災害が発生し家が潰れたなどで入れなくなった場合、学校にあればとりあえずなんとかなる、という理由から変更した。

1 3 福祉避難所の利用意向等に関するアンケート

本校において福祉避難所が開設された場合、想定される利用者である本校保護者に対して、令和6年6月に福祉避難所の利用意向や家庭での災害対策についてのアンケートを実施しました。アンケートの概要と結果は以下の通りです。

(1) アンケートの概要

- ・実施時期 令和6年9月
- ・配付数 95家庭（内訳 93家庭、A福祉施設 1家庭、B福祉施設 1家庭）
A福祉施設、B福祉施設についてはそれぞれ1家庭とカウントし、回答者は福祉施設に選定を依頼。
- ・実施方法 Forms を利用したオンライン調査
- ・有効回答数 42件（42家族）
- ・回収率 44.7%
- ・回答者の属性 父親3名 母親36名 祖父母2名 施設職員1名（計42名）
- ・調査内容

本校の福祉避難所の利用意向に関する質問3項目、家庭での災害対策に関する質問9項目の合計12項目。

(2) アンケートの結果

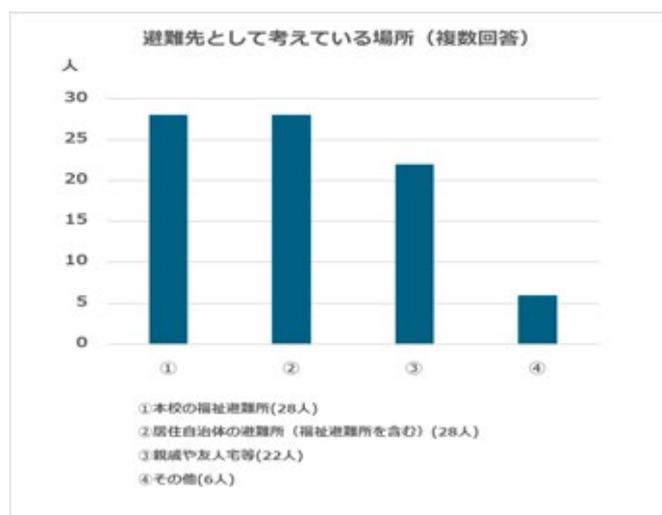
【質問1】

(設問)

大規模な災害が起きて自宅から避難が必要になった場合、避難先として考えている場所を全て選んでください（複数回答）。

(結果)

本校の福祉避難所の利用想定は、28家族でした。



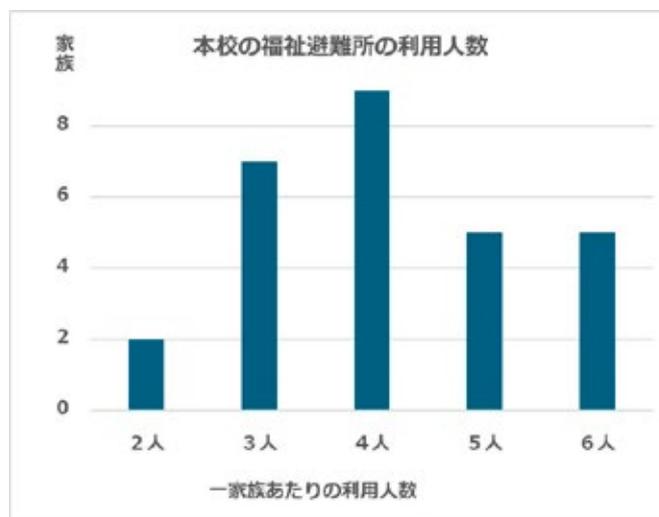
【質問2】

(設問)

本校の福祉避難所を選んだ方に質問です。利用される人数は何名ですか？（本校に在籍する児童生徒、家族の人数を含めてお答えください）

(結果)

本校に在籍する児童生徒を含んだ、本校の福祉避難所の1家族ごとの利用想定人数は、2人が2家族、3人が7家族、4人が9家族、5人が5家族、6人が5家族であり、合計利用想定人数は116人でした。



【質問3】

(設問)

本校の福祉避難所を選ばなかった方に質問です。その理由をご記入ください（自由記述）。

(結果)

本校の福祉避難所を選ばなかった理由については、13件の回答がありました。理由の内容から、自宅から学校までの距離の要因、災害時の移動に関する要因、複合的な要因、その他の要因の4つの要因に分けたところ、自宅から学校までの距離の要因が13件の内、9件を占めていました。

(自宅から学校までの距離の要因)
距離が遠いから。 遠いから。 自宅から遠い為。 家から遠いため。 家から遠いため。 家から距離があるから。 遠い、近くの親戚宅や自治体避難所が良いから。 地域の自治体の方が近いから。 家から遠く、安全に避難できるか不安だから。
(災害時の移動に関する要因)
学校に行くまでの道のりで災害が起きそうな場所が多々ある為辿り着けるか不安があるから。
(複合的な要因)
少し距離があるような気がするのと、犬がいるので難しいかと思っています。
(その他の要因)
自宅が成田市なので。本人も福祉としてのサポートは現状においては不要かと思うのでなるべく近い所に対応したい。 医療的ケアが必要ないため。

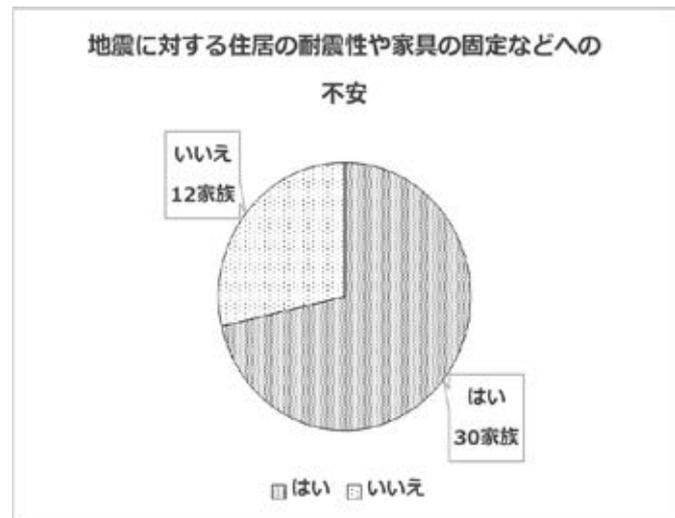
【質問4】

(設問)

地震に対してお住いの住居の耐震性や家具の固定等に不安はありますか？
（「はい」か「いいえ」でお答えください）

(結果)

地震に対する住居の耐震性や家具の固定等への不安がある家族は、30家族でした。



【質問5】

(設問)

地震に対する住居の耐震性や家具の固定等の不安の理由をご記入ください(自由記述)。

(結果)

住居の耐震性への不安に関する回答が6件、家具の固定等の不安に関する回答が6件、住居の耐震性と家具の固定等への不安に関する回答が1件でした。

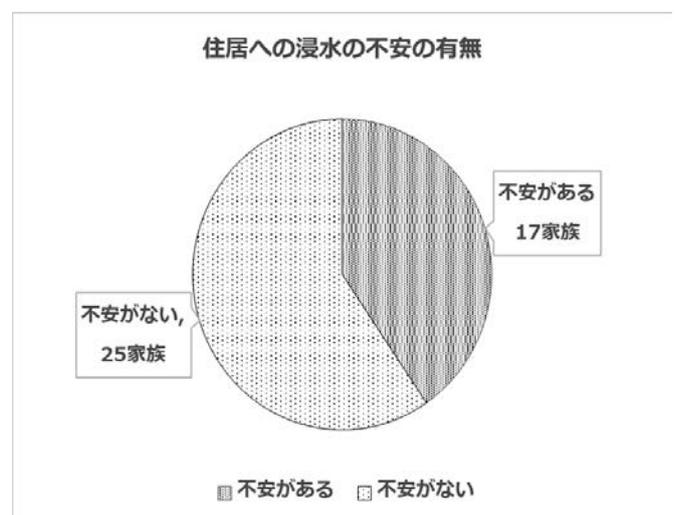
【質問6】

(設問)

風水害についてお聞きします。お住まいの住居への浸水の不安はありますか？（「はい」か「いいえ」でお答えください）

(結果)

住居への浸水の不安がある家族は、17家族でした。



【質問7】

(設問)

住居への浸水の不安の理由をご記入ください（自由記述）。

(結果)

住居への浸水の不安の理由として、住居の近くの河川の存在をあげた回答が最も多くありました。

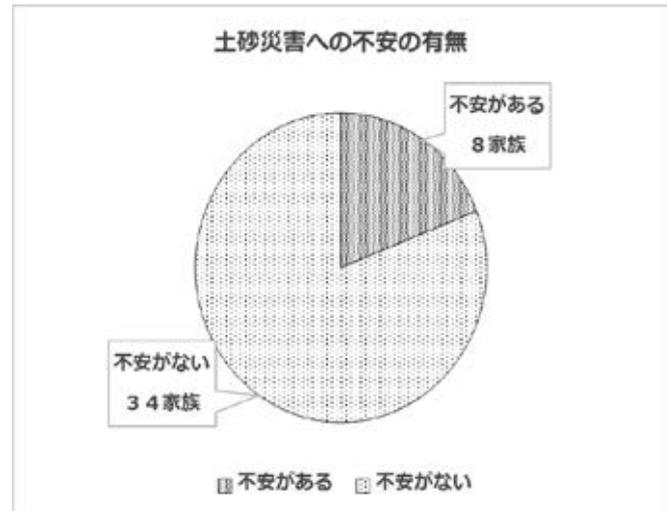
【質問8】

(設問)

土砂災害についてお聞きします。お住いの住居への土砂災害の不安はありますか？（「はい」か「いいえ」でお答えください）

(結果)

土砂災害への不安がある家族は、8家族でした。



【質問9】

(設問)

土砂災害への不安の理由をご記入ください（自由記述）。

(結果)

土砂災害への不安が「ある」と回答した理由として、自宅周辺の山や高台の存在をあげた回答が多くありました。

【質問 1 0】

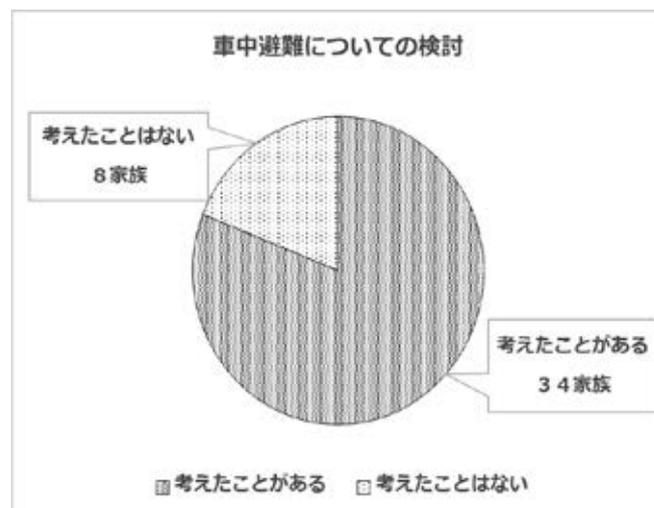
(設問)

車中避難について、災害時の避難としては推奨されていませんが、車中避難を考えたことがありますか？

(「はい」か「いいえ」でお答えください)

(結果)

車中避難を考えたことがある家族は、34家族でした。



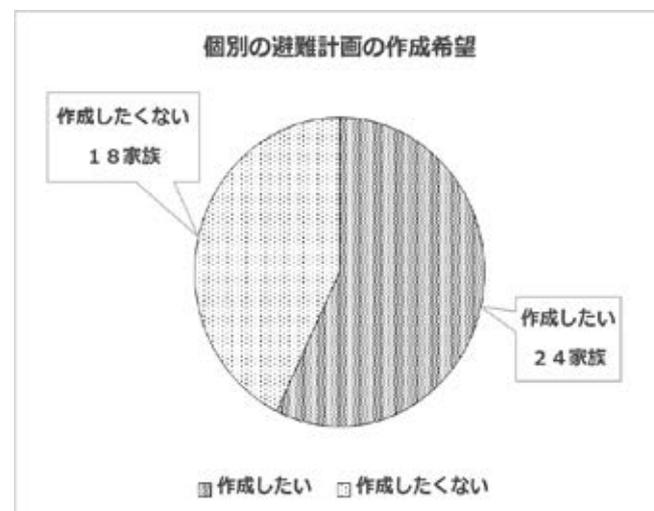
【質問 1 1】

(設問)

個別の避難計画の作成（災害時を想定した自宅等から避難所までの避難方法を定めたもの）を行いたいと思いますか？（「はい」か「いいえ」でお答えください）

(結果)

個別の避難計画の作成を希望した家族は、24家族でした。



【質問 1 2】

(設問)

個別の避難訓練（災害時を想定した自宅等から避難所までの避難訓練）を行いたいと思いますか？（「はい」か「いいえ」でお答えください）

(結果)

個別の避難訓練の実施を希望した家族は、21家族でした。

